



今週、このレポートを読む価値

コア・テーゼ

次世代エネルギー技術の商業化が加速。
全固体電池、ペロブスカイト太陽電池、水素、
次世代蓄電が実用化フェーズへ移行し、
市場競争が激化する。

市場ムード



今週の主要KPI



世界のバッテリー
貯蔵容量 (BESS)

2026年末までに

1,500GWh超

前年比

+114%



出典：BloombergNEF



ペロブスカイト-シリコン
タンデム効率

34.82%

JinkoSolar
新記録

安定性 (最大出力維持率)



5000時間
(IEC基準)

出典：JinkoSolar (2026.07.07 発表)



世界の
水素トラック市場

2035年までに

169.7億ドル

前年比 (CAGR 2026-2035)

+341%



出典：Precedence Research



全固体電池
エネルギー密度

500Wh/kg

GBT (国標)

2026年量産目標

エネルギー密度比較 (Wh/kg)



出典：GB/T 最新動向 (2026.06)

今週の3大シグナル

1

全固体電池とNaイオン電池が
EV・グリッド貯蔵で
量産フェーズへ。

Toyota, Samsung SDI,
CATL, Peak Energyが焦点。



- ✓ Toyota：全固体電池を2027-2028年に車載投入へ
- ✓ Samsung SDI：全固体ラインの試作から量産へ移行
- ✓ CATL：凝集型全固体電池を26年小規模量産
- ✓ Peak Energy：Naイオンを長時間BESSで量産拡大

キーワード 全固体電池 | Naイオン | 量産フェーズ | EV | グリッド貯蔵 | 安全性向上

2

ペロブスカイト太陽電池は
34.82%効率と5000時間安定性で
商用化接近。



- ⑧ 34.82%
タンデム効率
(JinkoSolar)
- 5000時間
染色法での安定性確認
(IEC基準)
- 量産ライン構築と
パートナー拡大が加速

キーワード ペロブスカイト | タンデムセル | 高効率 | 安定性 | 商用化 | 量産ライン

3

水素トラック125台、
ドイツHRS投資2.2億ユーロ、
液化水素サプライチェーン連携が進む。

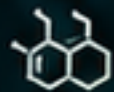


- ✓ 日本：水素トラック125台の商用運行開始 (投胎地域)
- ✓ ドイツ：HRS (充填ステーション) に2.2億ユーロ投資
- ✓ Liquid Hydrogen：液化・輸送・受入基地で連携強化
- ✓ アジア・欧州で液化水素バリューチェーン構築が加速

キーワード 水素トラック | HRS投資 | 液化水素 | サプライチェーン | 脱炭素物流



エンジニアへの関連性



電池材料の仕様見直し

固体電解質、正極材料、バインダー等の耐久性・コスト・供給性評価が急務。



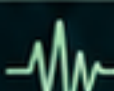
BESS設計・安全設計の更新

高エネルギー密度化に伴う熱設計、消防・隔離基準の再検討が必要。



リサイクル・回収率の向上

新材料 (Li, Ni, 固体電解質等) 回収技術と回収率目標の再設定が必須。



パワコン・系統制御の仕様見直し

高比率再エネ・BESS・VPPに対応する制御アルゴリズムと系統安定化機能の強化。



プランナーへの関連性



中国勢が先行、競争激化

電池・太陽電池・BESSで中国サプライヤーの量産優位が拡大。



欧米が供給網を強化

HRS投資、重要鉱物調達、製造拠点を域内回帰が加速。



VPP・LDES・水素の投資優先順位を再評価

短期：BESS、中期：LDES/水素、長期：CCUS・合成燃料との連携を検討。



規制・インセンティブの変化を注視

補助金、税制優遇、炭素価格、再エネ義務化の動向が投資判断を左右。



総合判断 (Verdict)

読む価値は高い。

量産時期、コスト、供給網、
規制インセンティブを
同時に追うべき週。



量産時期

2026-2028年が
勝負の分岐点



コスト動向

材料・製造・
システムで低減加速



供給網リスク

調達多様化と
国内回帰が鍵



規制/インセンティブ

各国の支援強化で
市場拡大を後押し

機会・脅威・次のアクション

🎯

機会 (OPPORTUNITIES)

🔋

1 全固体電池

Toyota/Samsung SDIの2027-2028年EV搭載、GBT 500Wh/kg、ProLogium/QuantumScapeの量産接近。

☀️

2 ペロブスカイト

JinkoSolar 34.82%、Trina 29.2%/907W、BIPV・宇宙用途・フレキシブル化。

🔋

3 次世代蓄電

CATL TENER Sodium 2026年末1GWh、Peak Energy 4GWh工場、VPP/LDES需要。

♻️

4 リサイクル

Li/Co 95%、Ni 97%回収、Redwood, Li-Cycle, BASFの能力拡大。

⚠️

脅威 (THREATS)

🏭

1 中国勢の量産先行

電池・材料・機器で量産スケールとサプライチェーンを先行確保。

💰

2 Naイオンの低コスト圧力

0.35-0.40元/Whの低コストにより、価格競争が加速。

📈

3 リチウム価格変動

需給・価格のボラティリティが収益と投資に影響。

👷

4 非公式リサイクラーの存在

環境・安全・データ透明性の欠如が供給網リスクに。

🔥

5 H2コストと政策不確実性

グリーン水素コスト高止まり、補助金・規制の不確実性。

🏗️

6 系統接続・安全規制の遅延

系統接続容量、消防・安全基準の遅延が導入を阻害。

誰に読んでほしいか (WHO SHOULD READ)

🔋

電池材料・BESS設計者

☀️

太陽電池事業開発

🔋

水素インフラ企画

🏗️

電力・VPP担当

♻️

リサイクル/サーキュラーエコノミー責任者

📈

投資企画

経営への3つの問い (MANAGEMENT QUESTIONS)

1 自社の電池/蓄電ロードマップはNaイオンと全固体の二正面に対応しているか。

2 中国低コスト供給に対し、差別化は性能、安全、寿命、供給網のどれで作るか。

3 水素・VPP・LDESの優先投資はどの市場シナリオで成立するか。

主要テーマ × 影響マトリクス (IMPACT MATRIX)

	市場影響 (市場規模・成長)	実現可能性 (技術・政策)	緊急度 (時間軸)	総合インパクト
🔋 全固体電池	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	高
☀️ ペロブスカイト	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	高
🔋 次世代蓄電 (Na・LDES/VPP)	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	高
🔋 水素 (インフラ/燃料電池)	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	中
♻️ リサイクル/ サーキュラー	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	中

次のアクション (ACTION TIMELINE)

🕒 今週

主要競合の量産時期、コスト、供給網を比較表化。

📅

🕒 30日以内

BESS/電池材料/水素の提携候補を3社選定し技術DD。

🤝

🕒 四半期以内

実証・調達・規制対応のGo/No-Go基準を設定。

📋

最終優先事項 (FINAL PRIORITY)

🎯

最優先は「量産時期 × コスト × 供給網リスク」の監視。

📅 量産時期
(スピード)

×

💰 コスト
(経済性)

×

🌐 供給網リスク
(安定性)

技術性能だけでなく、**商用化速度**を判断軸にする。

🔍 → 🏭 → 🌐 → 📈 → 👥